

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

## 人はなぜ旅に出たのか

### 『地中海世界の旅人』

—移動と記述の中近世史—

長谷部史彦（文学部教授）編著  
 岩波敦子（常任理事、理工学部教授）、神崎忠昭（文学部教授）、藤木健二（文学部助教）ほか著  
 慶應義塾大学言語文化研究所／3780円  
 （2014年3月）



中世から近世にかけて、地中海を中心とした東西南北の諸地域間の交流は、ヨーロッパの社会経済的成長も相まって、その勢いを格段に増した。当時の西アジアや北アフリカ、ヨーロッパを旅した老若男女は何を求め、どのように旅をしたのか。そして旅の情景や自身の思索、異文化との接触交流を、いかに記述したのか。

本書では、旅や移動をめぐる記述をどう解釈するかについて探求する。残された多様な史料から、旅人たちを取り巻いた世界や時代の刻印を、12人の研究者がそれぞれ独自の視角から読み解いてゆく。

## 教職員執筆の最新刊

●池上直己（医学部教授）著

『医療・介護問題を読み解く』日本経済新聞出版社／1080円（2014年6月）

●原大地（商学部准教授）著

『マラルメー不在の懐胎』慶應義塾大学出版会／3024円（2014年6月）

●野口和行（体育研究所准教授）ほか著

『自閉症と豊かな暮らし—キャンピング・ロイヤルから学ぶ』晃洋書房／2160円（2014年7月）

●横手慎二（法学部教授）著

『スターリン「非道の独裁者」の実像』中公新書／972円（2014年7月）

●鹿又伸夫（文学部教授）著

『何が進学格差を作るのか—社会階層研究の立場から』慶應義塾大学出版会／756円（2014年8月）

●オリヴ・チェックランド著、和気洋子（名誉教授）訳

『マッサンとリター・ジャパニーズ・ウィスキーの誕生』NHK出版／2160円（2014年8月）

## 慶應義塾この一冊

『伝記 小泉信三』

神吉創二（幼稚舎教諭）著  
 慶應義塾大学出版会／2592円  
 （2014年7月）



第二次世界大戦時、国から受けるさまざまな圧迫から義塾を守り抜いた第7代塾長、小泉信三。学徒出陣前の「最後の早慶戦」を実現させた立役者としても知られる彼は、文筆家として、また今上天皇の皇太子時代の御教育常時参与として、戦後の日本を支えた。義塾を愛し、スポーツを愛し、家族を愛したその生涯を、平易な文体で生き生きと描いたのが本書である。

子どもから大人まで世代を超えて読める伝記に仕上がっており、義塾の歴史を知る上でも貴重な一冊となっている。読書の秋、ぜひ親子で手に取って読んでほしい。